



# 教会と地域がつながるシリーズ第6回

2022.6/16(木)13:20 ~ 15:30

## 講演：「教会でもがん哲学外来カフェを始めよう」

場所：東中野キングス・ガーデン1階 キングスカフェ

講師：樋野興夫氏

※コロナ状況によっては定員を半分の18名とします。また、定員になり次第締め切りとさせていただきます。ご了承ください。

**入場無料**

**会場(定員36名)と  
オンライン**

どなたでもご参加頂けます

**※要事前申込！**

### ● プログラム

- 13:20 開会・ごあいさつ
- 13:30 講演「教会でもがん哲学カフェをはじめよう」  
講師：樋野興夫氏
- 14:30 質疑応答・意見交換
- 15:30 閉会

### 📍 アクセス



講師ご紹介 樋野興夫 (ひのおきお) 氏

1954年島根県生まれ。医学博士。順天堂大学名誉教授、新渡戸稲造記念センター長、一般社団法人がん哲学外来理事長、恵泉女学園理事長。がん患者の不安と悩み、その気持ちを受け止める対話の場として2008年「がん」哲学外来を創設。がんと向き合うすべての人の支援のための「メディカルカフェ」は全国180箇所で開催されている。著書多数。

参加申込表 FAX送信先:5398-1490 6/10(金)〆切

|        |            |
|--------|------------|
| 氏名     |            |
| 所属     |            |
| 連絡先TEL |            |
| メール    |            |
| 参加形態   | 会場 ・ オンライン |

問合先：03-5399-2201(平日9:00~17:00)

練馬キングス・ガーデン(渡部・中島)

※メールでも受け付け可能です。

[kgrengo@kg-tokyo.or.jp](mailto:kgrengo@kg-tokyo.or.jp)(渡部直通)



→オンライン参加お申込みの方にはZoomのURLをメールにてお送りいたします。



## がん哲学外来とは？

多くの人は、自分自身又は家族など身近な人が「がん」にかかった時に初めて「死」というものを意識し、同時に、「自分がこれまでどう生きてきたか」、「これからどう生きるべきか」、「死ぬまでに何をなすべきか」を真剣に考えます。一方、医療現場は患者の病状や治療の説明をすることに手一杯で、がん患者やその家族の精神的苦痛までを軽減させることができないのが現状です。

「がん哲学」とは、生きることの根源的な意味を考えようとする患者と、がんの発生と成長に哲学的な意味を見出そうとする医師との対話から生まれました。病理学者としての立場から、科学としての癌学には哲学的な考え方を取り入れていく領域があるとの立場に立ち『がん哲学』を提唱しています。日本人の半分ががんになる時代、好むと好まざるとにかかわらず、多くの人ががんと一緒に生きる方法を見つけなければなりません。



## メディカルカフェとは？

皆が抱える「悩み・不安・思い・願い」などを、お茶を飲みながら共有し、共に泣き、共に喜び、帰る時には心が軽くなる、そんなことを目指す対話の場です。全国180ヶ所を超えるキリスト教会、病院、公共施設などで開催され、がんを患うご本人だけでなく、ご家族、ご友人・知人、ご遺族、医療関係者、将来の備えのために、と様々な立場でがんに向き合った方々が参加されています。

### 参加者の声

- ◎ とにかく自分の思いを聴いてもらえる場所が欲しかった。聴いてもらえるだけでも心が落ち着きます。
- ◎ いつ再発するかという不安でいたたまれない。家族にもどう説明したら・・・
- ◎ 友人ががんになりました。ご家族はいままで通り普通に接して欲しいと言われるのですが・・・
- ◎ がんの方もそうでない方も、参加者がみな同じ対等な目線でいるのが良い。
- ◎ がんの夫の気持ちがわからない。こちらは十分気を使っているのに・・・
- ◎ みんなの話で気づかされることがたくさんあった。また来ます。



## "言葉の処方箋"とは？

『がん哲学外来では「言葉」を処方します。その多くは、若い頃から学んできた先人の言葉など、私の心の引き出しに入っているものです。しかし、「言葉の処方箋」を出す前の相談者との対話が最も大事です。』

心のコミュニケーションである対話は、「医者」対「患者」ではなく、「人」対「人」のものです。



『がん哲学外来』の目的は、人生が自分に期待する役割、使命に気づくこと。簡単には見つけられません。ただし、『がん哲学外来』には苦しみやつらさを知る人に手伝ってほしいことが、いまも山ほどあります。